

文化芸術振興施策を推進するうえでの主要な課題

第2期計画の策定にあたり、文化芸術振興審議会（以下「文芸審」）、庁内検討会議（以下「庁内会議」）、eモニターアンケート（以下「eモニター」）で聴取した意見を基に、「施策を推進するうえでの主要な課題」を整理しました。

今後は、これらの課題を解決するための具体的な取り組みを検討していきます。

①伝統文化の保存と継承に向けた取り組みの推進

【主な意見】

- ・ 伝統文化は、後継者不足が深刻な問題となっており、これに対応した方策を検討すべきである。（庁内会議）
- ・ 日本の伝統文化を紹介する取り組みが必要である。（文芸審・eモニター）
- ・ 伝統文化の継承、歴史施設の維持管理が重要である。（eモニター）

②若者の才能、活力をいかす機会の提供

【主な意見】

- ・ 青少年の活力を活用した取り組みをもっと増やすべきではないか。（庁内会議）
- ・ 文化芸術の発展の原動力となる若い世代の活躍できる機会、場を提供してあげることが重要と考える。（庁内会議）

③文化芸術の楽しさを知る子どもたちの育成

【主な意見】

- ・ 未来の担い手を育てることが、文化芸術施策として一番大事なことである。小中学校を巻き込んだ芸術教育の検討が求められる。（文芸審）
- ・ 子どもへの良質な芸術鑑賞・体験の機会を増やすべきと考える。（文芸審・eモニター）

④文化芸術拠点としてのミッションの実現

【主な意見】

- ・ 新たに整備する芸術文化ホールを中心にいかに文化芸術に親しむことのできる環境を整えていくかが重要となる。（庁内会議）
- ・ 立派な音響設備等も必要だが、お客様がまた観たい、また来たいと思える中身が重要。お客様が足を運んでくれる取り組みを考え、色々なところでPRしていくことに注力すべきと考える。（文芸審・eモニター）
- ・ 良質な文化・芸術に触れる機会、市民の文化芸術活動の場の提供を充実すべきである。（文芸審・eモニター）
- ・ 大和ならではの文化芸術を創造する団体を育てるような事業を展開すべきと考える。（庁内会議）

⑤文化芸術に関する情報発信機能の強化

【主な意見】

- ・今はインターネット社会。大和市が誰に対して、どの手法を使って発信するかを考えていくことが必要である。広報やまと以外の方法も検討してもらいたい。(文芸審・庁内会議・eモニター)
- ・市が広報活動の支援を充実することが、市民の文化芸術イベントの成功の鍵を握っていると思う。(文芸審・eモニター)
- ・地域を愛する気持ちを育てるために、大和の歴史を積極的にPRしていくことが重要と考える。(庁内会議)
- ・市の広報によるPRを充実してほしい。(eモニター)

⑥文化芸術と暮らしを結びつける取り組みの充実

【主な意見】

- ・これからは、YAMATO ART100のような市民の力で大和の文化芸術を盛り上げていく取り組みが必要なのではないか。(庁内会議)
- ・芸術文化ホールを中心にして、施設間のネットワークを構築するなど、点を線で結び、面的な広がりを持たせていくような施策の検討が求められる。(庁内会議)
- ・市民と文化芸術を結びつけるためには、それをつなげる担い手が不可欠である。現在、美術鑑賞と文化財のボランティアスタッフが育成されているが、他のジャンルでもこうした人材を育てていく必要がある。(文芸審)
- ・市民一人ひとりが文化・芸術活動に触れる環境をつくることが重要である。(eモニター)

⑦文化芸術と他分野との連携の推進

【主な意見】

- ・文化芸術を介した観光イベントは、まちの魅力をつくりあげる大きな財産になっている。(文芸審)

⑧文化芸術によるコミュニケーションの促進

【主な意見】

- ・文化芸術振興条例に規定している「多文化共生のための施策」がまだ十分とはいええないため、これを推進するための方策を積極的に行うべきと考える。(文芸審)
- ・多文化を理解するために、市内在住外国人の発表の機会を提供し、交流を促進していく必要がある。(庁内会議・eモニター)
- ・文化芸術団体の活動を活性化させるために、団体間、異世代間の交流やプロのアーティストとの出会いを創出する方策を検討する必要がある。(庁内会議)